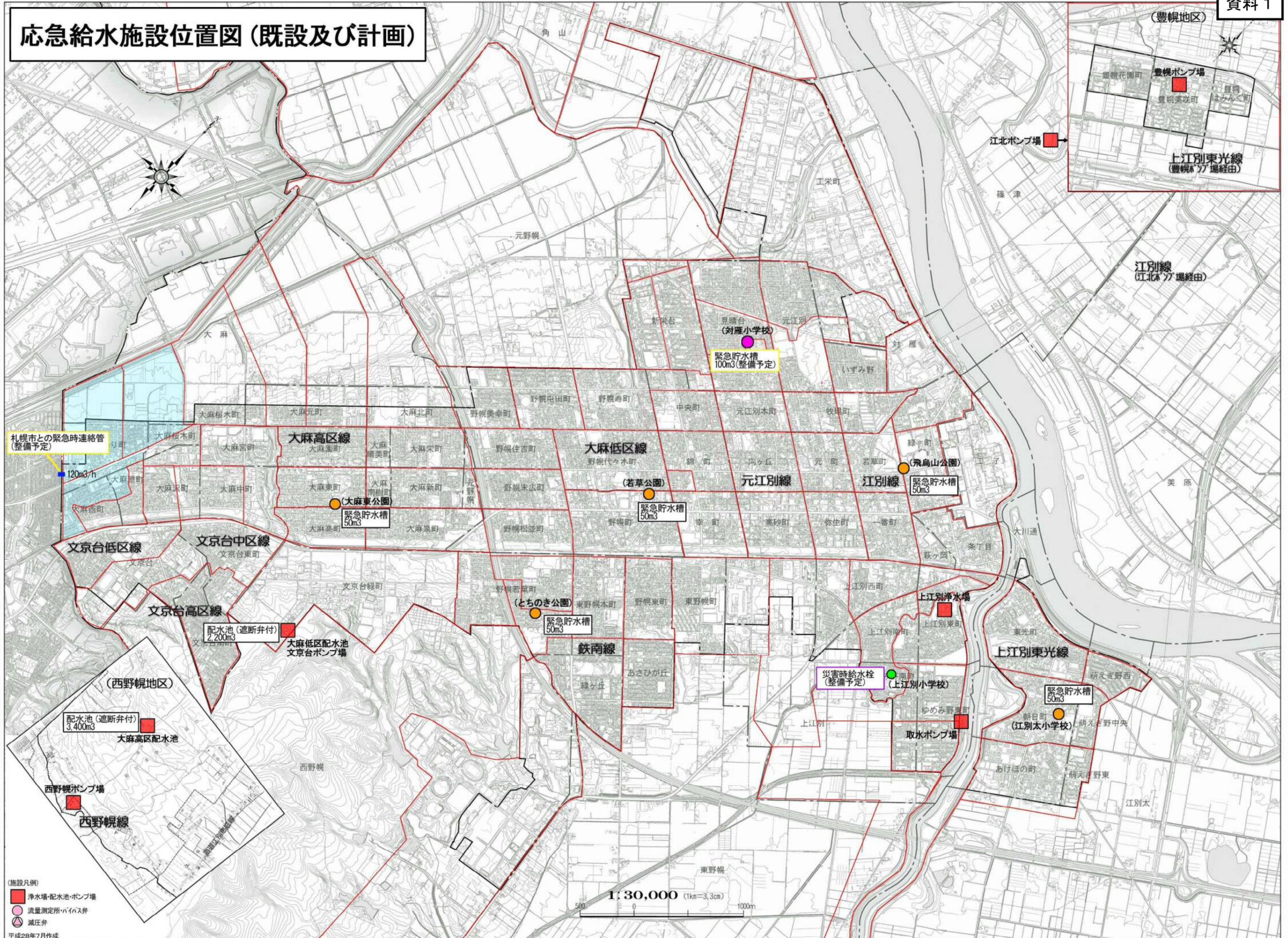


応急給水施設位置図 (既設及び計画)



(施設凡例)
 ■ 浄水場・配水池・ポンプ場
 ● 流量測定所・バイパス
 ▲ 減圧弁
 平成28年7月作成

「この地図はH21江別市都市計画現況図を使用したものである。」

緊急時連絡管(江別市・札幌市)の整備について

【上下水道事業運営検討委員会資料】

1 緊急時連絡管とは

(1) 給水区域について

水道事業は、原則として市町村が経営するとされているので、図1のとおり、江別市内については江別市水道事業、札幌市内については札幌市水道事業がそれぞれの市域を給水区域として、水道水を供給しています。

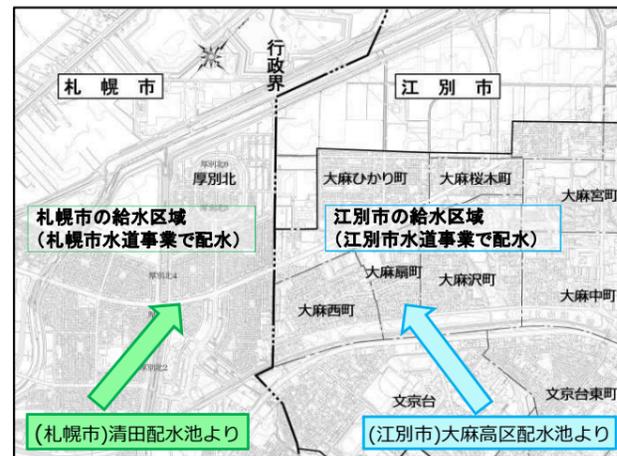


図1 給水区域について

(2) 緊急時連絡管とは

緊急時連絡管とは、事故や災害等により断水が発生した場合に、隣接する都市間で水道水を相互融通することを目的として、それぞれの都市の水道管どうしを接続するために新設する水道管(連絡管)です(平常時の使用は想定しません)。

なお、この緊急時連絡管は、緊急貯水槽や緊急遮断弁、災害時給水栓など同様の、応急給水施設の一つとして整備するものであり、緊急貯水槽と同様に、一部エリアへの応急給水を目的として整備するものです。

江別市水道部では、この緊急時連絡管の整備について、平成26年より札幌市水道局と協議を進めてきました。



図2 応急給水施設のイメージ

(2) 緊急時連絡管の仕様

<エリア諸元>

項目	札幌市	江別市
地区名(7*07ク番号)	厚別北(No.80)	大麻地区(No.5,9,10)
地区概況	戸建中心、高層有	戸建中心
地区内世帯数	約3,400世帯	約1,300世帯
地区内人口	約11,000人	約3,400人
地区内日平均配水量	2,300m ³ /日	770m ³ /日
地区内時間最大水量	332m ³ /h(H26夏季最大)	71.5m ³ /h(実測値に基づく予測)
連絡管による受水量	50m ³ /h(1,200m ³ /日)	120m ³ /h(2,880m ³ /日)
主要施設(避難所)	厚別北小	大麻高、大麻西小

<連絡管仕様>

- 位置：道道大麻東雁来線北側の市境部(市道、道道)
- 管種：ダクタイル鋳鉄管(GX)
- 延長：約20m(札幌市側)+約6m(江別市側)
- 口径：φ150

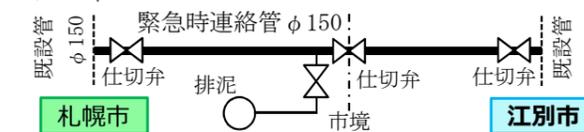


図3 緊急時連絡管イメージ



図4 緊急時連絡管整備位置と想定配水エリア

<周辺状況>



(3) 事業費用(概算)と整備方法等

<総事業費(概算)>

- 約750万円(札幌市450万,江別市300万)

<費用等の負担方法>

- 整備費負担、施工管理、維持管理等全ての面において、行政区域境をそれぞれの境界とする。

<完成後の訓練等>

- 年1回、両市の職員で訓練を予定(情報伝達訓練と作業手順訓練を1年おきなど)。
- 連絡管内の排泥作業を年1回実施する。



図5 費用負担・資産の帰属・維持管理範囲イメージ

4 今後の進め方

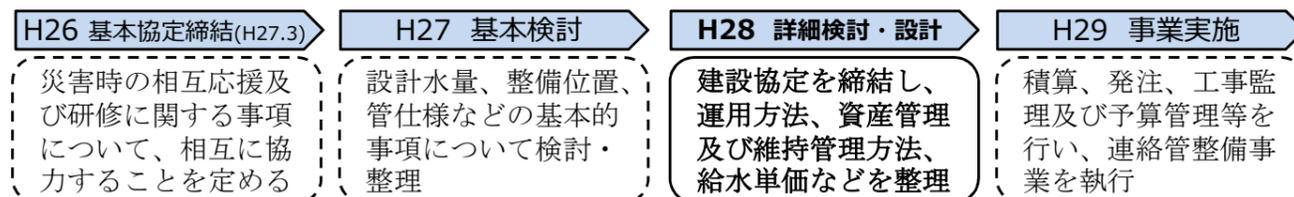
- 平成28年12月に工事に向けた「建設協定」を締結、それに基づき詳細設計を進める。
- 維持管理方法、給水単価について、引き続き協議・検討する。
- 札幌市では江別市の他、小樽市、北広島市とも同時進行しているため、工程について調整する。

<工程(予定)>

検討項目	平成28年度						平成29年度											
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1 運用方法・給水範囲等																		
2 維持管理方法・給水単価																		
3 詳細設計・各種協議																		
4 工事発注・施工																		

2 検討の経緯と考え方

(1) 検討の経緯

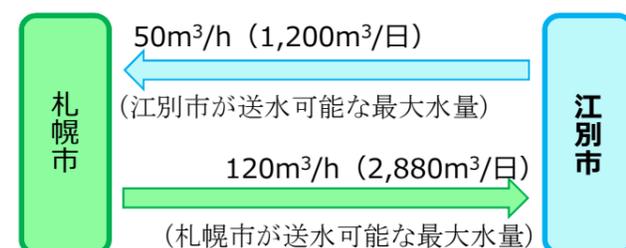


(2) 基本検討の考え方

連絡管の整備位置については、早期に連絡管を繋ぐことを念頭に置き、効果、経済性、施工性などについて札幌市と協議し、総合的に検討した結果、下記「整備の概要」で示す整備位置で実現に向け、詳細検討を進めることとしました。

3 整備の概要

(1) 設計水量



<水量・水圧検討(管網計算)の前提条件>

- 受水側の都市は減水・断水状態にあること。
- 自市の使用水量がピーク(最大)の場合においても、相手都市に送水できる水量であること。
- 送水により、自市の配水に水量、水圧面等の影響がでないこと(流向・流量の変化による濁水は考慮しない)。